

いよびぎ

No. 84

森田潔学長、6年の軌跡。

「国際的な「美しい学都へ」」

- 特別対談
学都の核となる 地域に開かれた岡山大学へ
学長 森田 潔 × 福武純子氏
- インタビュー
インタビューで振り返る 森田学長と岡山大学
- 理事が語る
- HISTORY 岡山大学年表
- News & Topics
大学の動き／研究・臨床成果
- 岡山大学Alumni（全学同窓会）
- 岡山大学学都基金



森田潔学長、6年の軌跡。



OKAYAMA
UNIVERSITY

目次

- 03 特別対談
学都の核となる
地域に開かれた岡山大学へ
学長 森田 潔 × 福武純子氏
- 05 インタビューで振り返る
森田学長と岡山大学
- 09 理事が語る
理事・副学長（企画・総務担当）
阿部 宏史
理事・副学長（教育担当）
許 南浩
理事・副学長（研究担当）
山本 進一
理事・副学長（社会貢献・国際担当）
荒木 勝
理事・副学長（大学改革担当）
谷口 秀夫
理事（病院担当）
横野 博史
理事（財務・施設担当）
宮田 裕州
- 11 HISTORY 岡山大学年表
- 13 News & Topics
大学の動き／研究・臨床成果
- 15 岡山大学 Alumni（全学同窓会）
岡山大学学都基金

— 国際的な「美しい学都へ」 —

森田潔学長が2017年3月末で、6年の任期を終えます。
岡山大学の舵を取り、前へと動かしたその道りを自ら振り返るとき、
森田学長は何を語るのでしょうか。
3月号では、福武純子氏との特別対談や、学長インタビューを通して、
国際的な研究・教育拠点としての「美しい学都」を目指し歩んだ
6年の軌跡をたどります。

森

田潔学長の6年間では、福武純子氏(福武教育文化振興財団理事長)から鹿田キャンパスに「Junko Fukutake Hall」(愛称:「Junko Fukutake Terrace」)(愛称:「Junko」)津島キャンパスに「Junko Fukutake Terrace」(愛称:「Jテラス」)が寄贈され、岡山大学の新たなシンボルが誕生。森田ビジョンの柱の一つである「キャンパスの創造」が大きく前進しました。大学と地域の垣根のないまちづくりへ、森田学長と福武氏が思いを語り合いました。

「JホールやJテラスをつくる」「Jプロジェクト」の経緯について。
森田 学長就任前に福武さんとお会いした際、開校になったら岡山大学を地域に開かれた、国際的で美しく、気品のある大学にして、ブランド力を高めたいという夢を語ったところ、共感いただき、それがきっかけとなりました。
福武 岡山が市民と大学の垣根のない学園都市になるというなとずっと思っていました。でも、

学生など若者の姿をまちで見かけることが少なく、若者がもっと外に出ていけるよう、岡山大学に牽引役になってほしいと考えていました。そのためには大学と市民がもっとコミュニケーションを取らなければなりません。私がちょうど岡山に帰ってきた2010年に、幸運にも当時病院長だった森田学長にお会いし、思いがまさに合致。これまで岡山大学との接点はありませんでしたが、話をしている間に寄贈したいという思いに至りました。

できるという強みもあります。点と点からコミュニケーションが生まれて面になるように、JホールやJテラスに人が自然に集まり、自由に豊かな対話を通じてセレニディビティ(思わぬ発見)が生まれてくるとうれしいです。

整備されたキャンパスで大学改革も進んだ。

森田 気品もあってこそ美しいキャンパスであり、品を保つためには教育・研究のレベルを高める努力も必要。国公立の総合大学として初めて全学部で60分授業・4学期制を導入したことも業績として自慢できることです。受け入れ留学生数や日本人学生の派遣数も倍近く増えるなど大学全体の国際化も少しずつ進んでいます。岡山大学地域総合研究センター(A-GORA)では協働プロジェクトなどを通じて、岡山県内の自治体や経済界、各種団体に岡山大学の存在価値がかなり浸透してきました。岡山をまちが大学を中心に、若者たちを中心に発展していくスタイルが少しずつ確立できてきたのではないかと思います。

福武 日経BPコンサルティングが地域別に実施した「大学ブランド・イメージ調査2016」17(中国・四国編)において初めて第一位になりました。岡



自由な会話から新しいアイデアが生まれる場所を

—福武

森田 岡山大学という「巨大船」の船長となったわけですが、最初の1、2年は変化を起こすことが想像以上に難しかったです。物事を変えていくには理想を語るだけでなく、目に見える形のメッセージが必須。「Jプロジェクトは私の大学に対する思いを学内に伝える一つの手段となりました。」「岡山大学は変わる」というイメージを定着させ、学生や教職員らが意識改革や方向転換の営みの拠点として努力する契機になったように思います。

山大学が変わったことによって岡山のみならずぐく変わったと実感します。そう声掛けされることも多く、本当に素晴らしい改革をされたのだと思います。
森田 地域に根差し、学内外の人々が親しみと誇りを持っているような大学にならないはずありません。Jプロジェクトを発端に、文部科学省の「研究大学強化促進事業」、厚生労働省の「臨床研究中核病院整備事業(現・臨床研究品質確保体制整備事業)」に選ばれ、さらには難しいと思っていた文部科学省の「スーパー

グローバル大学創成支援」事業の支援対象機関にも選定されました。岡山大学が生き残るかどうかのターニングポイントで、福武さんには本当に大きな力を与えていただきました。運命的な出会いであり、あらためて心より感謝申し上げます。
福武 私は描いていた夢を先生方に語り、後ろから応援歌を歌っていただけで、先生方皆さまがなされたこと。すごく幸せな6年間でした。岡山大学のファンがもっと増えるようにと願っています。

Jプロジェクトが「変わる大学」のメッセージに

—森田

学都の核となる地域に開かれた岡山大学へ

特別対談 学長 森田 潔 × 福武純子氏

この対談の10日後、福武純子様は2月10日にご逝去されました。謹んでご冥福をお祈り申し上げます。ご親族である福武徳一郎様のご了解の下、この対談を掲載させていただいております。



新しくなった附属図書館。時計台両翼の南面をガラス張りにすることで開放的な雰囲気



中央図書館の改修したエリアの一つ。東北のヒノキを用いて森をイメージした空間「サルトフロresta ～飛翔の森～」



メインストリートである南北通路。生け垣を取り払い、レンガ舗道で開かれた雰囲気生まれ変わった

東西道路はフェンスや段差をなくし、既存のケヤキを生かしたレンガ舗道に整備。歩道とキャンパス内の境界がなくなり、より開かれたキャンパスになった



インタビューで振り返る 森田学長と岡山大学

Special Interview

森田ビジョンで打ち出した岡山大学の方向性を実現するため、どのように舵を取り、動かしただのか。インタビューを通して、熱い思いを込めた取り組みについて伺いました。

「美しい学都」キーワードの背景

後藤 まずは6年間を終えてみて、率直にどう思われますか。
森田 さみしさもあるし、よくやったという思いもあるし、物足りなさもある。複雑ですよね。私としては6年間が精一杯だという気持ちが強いです。
後藤 国際的な「美しい学都」という学長のキーワードについて、あらためて、発想や経緯をお願いします。

森田 フランスのストラスブール大学に行った時の印象が強くていて、そこをモデルに、大学を中心としたまちをつくりたい。それは岡山大学のみならず岡山のまち全体と一緒に発展しないと達成できないと感じました。私は岡山大学医学部卒で、岡山大学に対するナショナリズムを強く持っていますから、岡山大学を世界に名だたる大学にしたいという思いが常にありました。

後藤 岡大卒を言いたくなかったという方がいてショックを受けたことも。
森田 ある有名な方が、岡大卒を公の場で言ったことがなく、自慢ではなかったと聞いて本当にショックでした。岡大卒を自慢に、誇りに思える大学にしたい。それが、原点かもしれません。

後藤 最終的には2016年末に、日経BPコンサルティングの「大学ブランド・イメージ調査2016」17（中国・四国編）において、初めて第一位に輝きましたね。
森田 うれしかったです。自分の6年間に對する褒美かなと思います。

美しい学都の完成度

後藤 美しい学都の完成度からいうと、今どのくらいでしょうか。
森田 自分のやりたかったことの半分もいきませんでした。それでも残せたかなと思っています。キャンパス整備はお金を捻出するのに苦労しました。でも、ずっと残るレガシーなので、それほど高い買い物ではない。そのお金があつたらもっと研究費が欲しいという人もいましたが、用途や出どころが違うお金なので勘弁してください。
東西道路、南北道路、附属図書館や時計台などもきれいになりました。本当は東西道路にある座主川まで整備して終わりたいですが、キャンパスの中に川があるなんていう大学はそうないですよ、しかも美しい川の時計台までどんと通したかった。
後藤 それができれば、今より時計台が見えるようになる。イメージがまたさらに変わりますよね。
森田 「岡山大学ここにあり」というようにね。

ターニングポイントはSGU

後藤 6年間でキーになるのは、森田 岡山大学にとってのターニングポイントは2014年度の「SGU*」だと思う。

*SGU：文部科学省「スーパーグローバル大学創成支援」事業



【聞き手】後藤 邦彰
広報戦略本部長
大学院自然科学研究科 教授

白を基調としたガラス張りの開放的な Junko Fukutake Hall は SANAA による設計で 2013 年度オープン。国内の優秀な建築作品を表彰する「第 56 回 BCS 賞」受賞



大学会館北側に整備した交流広場。日陰をつくり、くつろぎの場を創造する屋根パーゴラは SANAA による設計。2013 年度に完成した



雲のような柔らかな曲線の屋根や開放的なガラス張りが特徴の Junko Fukutake Terrace。設計は SANAA で 2014 年度に完成した。「岡山市景観まちづくり賞」受賞



スーパーグローバル大学創成支援 (SGU) 事業取組状況説明会

るか沈むかのターニングポイントだと思えます。SGU がなかったら、ブランド力一位になっていないし、私の業績も全然評価されなかったでしょう。私一人ではできなかったことで、チームが取らせてくれたことだと思っています。皆さんには本当に感謝しています。

教育と研究

後藤 教育面はどのくらいの達成度ですか。
森田 2016 年度から全学部で導入した 60 分授業・4 学期制は岡山大学しかできないと思っています。1コマの授業時間をこれまで 90 分から 60 分に短縮し、2 単位を取得するために 90 分×15 回ではなく、60 分×30 回になり、授業時間が 1.3 倍に増えました。4 学期制になったこともあわせて、準備段階で、これまでの個々の授業と大学全体、学部全体の教育内容を考え直す機会が生まれました。導入はとも難しいうことでしたが、やり遂げ、走り始めた今、ブランド力の一つになっているんです。

後藤 研究面はいかがですか。
森田 研究は皆さん本当によく頑張ってください。文部科学省「研究大学強化促進事業」に採択されたのも、岡山大学の実力なら取れると思っていました。岡山大学の力を発揮していただいていると思っっています。異分野基礎科学研究所もでき、感星物質研究所もできた。これからも、さまざまな分野で研究が進むことを期待しています。
後藤 医工連携の大学院を作る話があります。

森田 岡山大学の発足からして医学部が強いです。組織がブランド力を上げようと思えば、一番強いところをまず伸ばすというのが定説ですから、まず医学部の発展というのが私の願いでした。そういった意味で、医工連携も進んだと思いますね。

枠から飛び出す

森田 自身は自分たちの思う大学をつくりたい、大学の本来あるべき姿を私たちが提案したいという思いが常にありました。そのためには、既存の枠から飛び出さないとけないというのが私の発想です。
後藤 2016 年に創設した、おかもやま地域発展協議体や、おかもやま円卓会議といった、大学の組織全体と、地域の行政、産業界などの連携も、枠から飛び出すという



岡山大学や経済界、行政、企業といった産学官民の代表者でつくる「おかもやま円卓会議」が発足。産学官トップが知恵を出し合い、地域の課題解決に取り組む

発想的には通じるものがありますか。
森田 延長線上ですね。やっぱり、県や地域の行政、産業からサポートがないと、絶対ダメなわけです。岡山のまち全体と一緒に発展しないと。
その観点や発想として、岡山大学メディアセンター (OUMC) 構想もあります。

文系が大学発展の起爆剤に

後藤 この先、大学を取り巻く状況はますます厳しくなるでしょうか。
森田 非常に厳しい状況に入っていくのは間違いない。子どもの数はどんどん減っていくわけですから、今の数ほど国立大学がいらなくなるのは目に見えていると思う。その時に岡山大学が当然残るべき大学に入っているかが勝負だと思っ込んでますね。中四国に国立大は一つでいいという時代が来るかもしれない。そういう状況は皆、認識していかないといいですね。
後藤 これからもっと強みを打ち出していきたい分野はどこでしょうか。
森田 文系でしょうね。国立の総合大学の価値や質を決めるのは文系だと思っています。岡山大学が発展するのは文系が第一なんです。必要だからこそ、もうちょっと「岡大色」を出して、起爆剤になることを期待しています。文系が強くなければ、トップ 10 に入るのには間違いないと思っっています。2017 年 10 月から始まるグローバル・デイスカバリー・プログラムとともに、岡山大学の看板になって、優秀な方が集まってくるとうれしいですね。

憧れる、自慢できる大学へ

後藤 広報体制の整備もされました。
森田 ブランド力は、大学の實力以上にいか皆さんに評価してもらうかが勝負。広報は非常に大切な一つです。ブランド力一位も、わずか 0.3 ポイントの差でトップになったのですが、あそこから言われますからね。一位という評価はとても大きい。

後藤 キャンパスを明るくされたという効果もあるのでは。
森田 キャンパスが美しい、憧れるというのは大学のブランドの要素として大きいと思う。学長になったときから、自慢できるようなキャンパスを目指しました。これだけ恵まれたキャンパスに手を付けたら、世界的建築家ユニット SANAA 設計の「Junko Fukutake Hall」や「Junko Fukutake Terrace」が完成しました。また現在、株式会社ストライプインターナショナルの石川康晴社長にご協力いただき、新たなプロジェクトが進行しています。

全力疾走でバトンパス

後藤 森田学長と同じように、病院長を務めた榎野博史先生が次期学長になります。
森田 榎野先生とは移行期間として一緒にいろいろなことをしています。3月31日まで全力疾走してバトンを渡しますから、榎野先生も4月1日に全力疾走で受け取ってくださいと伝えています。幸い、榎野先生

とはこれまでずっと一緒に活動してきましたから、意思疎通ができますからね。もちろん、変わっていくことあるはずですが、私自身、先代をやったことを継承したこともあるし、改革させてもらったこともあるわけですから。例えば、シンボルマークを変えましたしね。
病院長から学長へという流れが二代続いたのですが、私と榎野先生とはタイプが違います。ずっと同じ路線できましたが、外科医と内科医の違いですかね。タイプが違うからこそ良いと思っっています。
私は、人が代わらないと発展しないと思っっているんです。だから、榎野先生らしいことをやってくれたらいい。目指すところは一緒ですからね。

後藤 最後に、自己採点として、100点満点では何点を付けますか。
森田 やり残したこともいっぱいあるし、ただ合格点もやりたいので 65 点ですかね (笑)。
後藤 また微妙なところですね (笑)。
森田 60 点じゃさみしいし、65 点の合格ではダメですか (笑)。
後藤 (笑)。森田学長、ありがとうございます。6年間、本当にお疲れ様でした。

理事が語る

森田学長を支えた理事の存在も欠かせない。学長とともに歩んだ各理事が、担当業務や、思い入れのあるできごとを振り返る。



阿部 宏史

理事・副学長(企画・総務担当)

企画・総務担当理事の所掌事項は、中期目標・中期計画、大学評価、人事管理、ダイバーシティ推進、法務・コンプライアンスなどである。2015〜2016年度は国立大学が第2期から第3期に移行する期間であったため、第2期の業務実績まとめと評価への対応、第3期中期目標・中期計画策定などに追われたが、評価センターや総務・企画部によるサポートの下で順調に業務をこなすことができたと思う。

また、国立大学改革の方針に従って、年俸制導入による人事・給与制度の弾力化、女性教員や外国人教員の比率拡大、ガバナンス改革なども推進した。女性教員の雇用促進については、ウーマン・テュア・トラックの安定的運用に向けた制度見直しを行うとともに、上位職への特別昇任制度を導入することができた。人事・給与制度改革は、部局や教員個人の利害に絡むため、合意形成が難しいが、大学の国際競争力を高めるためにも、着実な取り組みが必要と考えている。



許 南浩

理事・副学長(教育担当)

前半は企画・総務担当として、まず全体の方針の策定や執行部の構築に力を注いだ。人事関係では、東日本大震災対応の給与の減額、労働契約法改正への対応、法務コンプライアンス体制の強化等に取り組んだ。この間、各部署局長、部局構成員と意見を交わす機会を多く持ったことが、後の仕事に大変役立った。

後半3年間の教育担当では、途端に60分授業・4学期制という大きな課題に取り組むことになり、いろいろなWGを組織して多数の教員・職員の智慧と努力を結集しながら二つ課題を乗り越えた。60分授業・4学期制を全学部(夜間主は除く)に導入するという一大変革を、たった2年の準備期間で成し遂げたのは、岡山大学の全ての教員・職員の潜在力を如実に示すもので、私はあらためて深い敬意と感謝を表すとともに心から誇りに思う。この他にも教養教育改革、大学院教育改革、俯瞰的な視点からの学生支援等々、想いは尽きない。

最後に、多大なエネルギーと智慧を絞ってくださった教員・職員の方々に深く感謝いたします。また、岡山大学がますます発展し、未来を生きる学生に力を与える場であるように、心から願っています。



山本 進一

理事・副学長(研究担当)

研究担当理事として、任期中に文部科学省の「研究大学強化促進事業」に採択されたことが印象深い。いくつかの研究力指標に基づいて「シニター」された大学から採択する方法は、これまでない選考方法であると同時にプレッシャーもきつかった。ヒアリングのプレゼンでは久々に緊張したものである。無事採択後、研究特区の「グローバル最先端異分野融合研究機構」を設置し、重点研究分野の戦略的強化に乗り出した。この機構では先駆(萌芽)的な研究段階から発達段階の研究コアを経て、成熟段階の研究センターや研究所に至る研究育成インキュベータの機能を有している。この機構とともに、地球物質科学研究所が誕生するとしても、地球物質科学研究センターが、惑星物質研究所に改組・拡充された。これで本学は地方大学では最も多い3大学附置研を有することとなった。これには、岡山大型型URA(二ハビシター・リサター・アドミニストレーター)の貢献が大である。



荒木 勝

理事・副学長(社会貢献国際担当)

「大学が、国際的に高く評価され、多くの人々が学びを求めて集まる場になるには、大学独自の努力が必要ですが、立地する都市もその大学にふさわしい魅力的な都市になることが不可欠です。その輝くダイヤモンドを収めるための素晴らしい宝石箱を作らなければなりません。」

2016年の秋、本学で開催された国際学都シンポジウムでの、フランスの元ストラスブール市長カトリヌ・トロットマン女史のこれらの言葉ほど、私に大きな感動をもたらしたものはなかった。人間は生まれながら知ること欲するが、大学こそ、長い人生の中でこの学びの喜びを与える場所ではないだろうか。この喜びを学生や研究者だけでなく、地域の幅広い分野、業種、世代の人々にも与え続けるとき、その時こそ、大学はダイヤモンドのように輝くのではないか。またこのような人々を守り育てる都市こそが、宝石箱になるのではないだろうか。この問いかけに大学人が真剣に向き合わねばならないことは確かである。



谷口 秀夫

理事・副学長(大学改革担当)

岡山大学の大学改革PPにあるように、大学改革担当理事として、改革・戦略を担当し、実践・運営を担当する各理事と連携し、聖域なき改革の日常化を推進した。特に、スーパーグローバル大学(SGU)創成支援では、工学部長の任期が残り半年になった頃(2013年秋)にSGU獲得に向けたプロジェクトチーム(PT)リーダーをお引き受けし、PTでの議論(100回以上)と全部局のご協力により、2014年秋の採択を得ることができた。

また、2014年5月に教員再配置システムの考え方を文科省に紹介する機会を得た。これを契機に、事業名「教育の実質化断行と基盤体制構築による『学びの構造化』の実現」新たな教員再配置システムに基づく教育改革の、国立大学改革強化補助金を得ることができた。文科省HPでは、教員再配置システムにより、教育革新を実施。全学的に60分授業、学びの構造化を「実現」とある。さらに、2016年末には、日経BPコンサルティングの「2016年フューチャード・イメージ調査2016〜17(中国四国編)」で第1位に輝いた。ご協力ありがとうございました。



榎野 博史

理事(病院担当)

病院長に就任当初より、岡山大学病院の強みを生かすには何があるかを考えていた。それは中国四国地方を中心とする550という全国屈指の関連病院のネットワークを活用できる臨床研究である。

そこでまず、新医療研究開発センターを運営主体とし、臨床研究の受け皿を整備した。次に中国四国地方を軸として200床以上の臨床研究コンソーシアムを構築し、メガホスビタル化した。その結果、2013年4月に全国で10施設、中国四国地方で唯一の施設として臨床研究中核病院の選定に繋がることになった。2014年に「健康寿命の延伸を目指す」次世代医療をテーマにオール岡山大学の体制が機能して、橋渡し研究加速ネットワークプログラムに採択された。臨床研究中核病院と橋渡し研究加速ネットワークの両方に採択されたのは旧帝国大学、慶応義塾大学と岡山大学だけである。

岡山大学病院の発展は、教職員が一体となって真摯に医療・研究に向き合ってきた結果だと考えています。ご協力とご支援に感謝いたします。



宮田 裕科

理事(財務・施設担当)

前理事を引き継ぎ、業務に当たった。予算の見える化として、予算編成に当たり「大学機能強化戦略経費」を創設。構成員が組織として目指す方向性を共有し、組織的協働力の推進を図ることを目指した。学長とは、財務状況勉強会を行い、コスト面や経営的視点からの指摘があり、部長長を統括させた。施設関係では2011年度の文法経1号館耐震改修に始まり、10件の耐震改修を実現。耐震対策事業は朝比奈氏の見込みだ。美しい学都」にむけ、福武純子氏の寄贈によるJunjo Fukutake HallとJunjo Fukutake Terrace、南北道路の整備、留學生センターハウスの建設、教育改革に連動した図書館整備なども進んだ。最先端研究拠点施設として、医歯薬融合型教育研究拠点施設、植物科学研究棟が完成し、高度先端医療として総合診療棟の整備などもある。

このほか安全衛生推進機構を設置し、危機管理体制の向上や研修会等の実施にも積極的に取り組んだ。また、心の健康宣言とメンタルヘルス対策推進室を設置も行った。敷地内全面禁煙も2014年4月1日から実施した。



HISTORY

主なトピックとともに、
6年間を年表にまとめました。

2016

- 11月 17 (中国・四国編) で第1位を獲得
- 10月 異分野基礎科学研究所を新設 **A**
- 4月 地球物質科学研究センターを惑星物質研究所に改組
- 4月 県内の産学官が連携して地域の課題解決にあたるプラットフォーム「おかやま地域発展協議体」を創設 **B**
- 10月 県内の産学官等の代表が地域の課題解決に取り組む「おかやま円卓会議」を設立
- 10月 教育学部附属小学校が創立140周年記念式典と記念音楽会を開催
- 10月 学都基金発起人会を発足 **C**

2015

- 10月 次世代人材育成センターを設置
- 10月 高等教育開発推進機構を設置
- 10月 資源植物科学研究所が創立100周年記念式典を挙行
- 10月 Junko Fukutake Terraceが完成 **D**
- 10月 岡山市内の西川緑道公園沿いに学外施設「西川アゴラ」を開設 **E**
- 10月 教育学部附属幼稚園が創立130周年記念式典を開催
- 10月 附属中央図書館がリニューアルオープン
- 10月 ロンドン事務所を開設
- 10月 植物科学研究棟が竣工 **F**
- 10月 上海事務所を開設 **G**
- 3月 津山中央病院と共同で運用する「がん陽子線治療センター」を開設
- 3月 外国人留学生と日本人学生が共同生活を送る「岡山大学国際学生シェアハウス」が完成 **H**

2014

- 4月 全学の敷地内で全面禁煙を開始
- 5月 附属図書館がリニューアルオープン
- 7月 国際センターをグローバル・パートナーズに改組
- 7月 研究推進産学官連携機構が鹿田本部を開設
- 4月 4月 全学の敷地内で全面禁煙を開始
- 5月 附属図書館がリニューアルオープン
- 7月 国際センターをグローバル・パートナーズに改組
- 3月 交流広場が完成 **I**
- 11月 岡山大学 AUN-IC (全学同窓会) を設立
- 10月 Junko Fukutake Hall が完成 **J**
- 10月 岡山大学 AUN-IC (全学同窓会) を設立
- 10月 生殖補助医療技術教育研究センターを設置
- 5月 「Oratio」を開設 **K**
- 5月 留学生在や学生の交流の場となる言語カフェ「Oratio」を開設 **L**
- 4月 グローバル人材育成院を設置
- 4月 岡山大学病院に総合診療棟が完成 **M**
- 4月 津島地区に正課外活動施設を新営・改修
- 3月 留学生在や学生の交流の場となる言語カフェ「Oratio」を開設 **N**

2013

- 12月 法科大学院弁護士研修センターを設置
- 12月 国立六大学連携コンソーシアムを設立
- 9月 地域医療人育成センターおかやま (MUSCAT CUBE) が開設
- 6月 岡山市内に学外拠点「まちなかキャンパス城下ステーション」をオープン **O**
- 4月 コミュニケーションシンボルの制定 **P**
- 4月 岡山市内に学外拠点「まちなかキャンパス城下ステーション」をオープン **Q**
- 2月 若手研究者キャリア支援センターが開設 **R**
- 11月 岡山大学留学生同窓会を設立
- 10月 (OMO) が開設
- 4月 理学部附属臨海実験所が教育関係共同利用拠点に認定
- 4月 おかやまメテオカリエーションセンター (OMO) が開設

2012

- 4月 理学部附属臨海実験所が教育関係共同利用拠点に認定
- 4月 おかやまメテオカリエーションセンター (OMO) が開設

2011

- 4月 理学部附属臨海実験所が教育関係共同利用拠点に認定

▼外部資金の主な採択状況

- 2011年度 文部科学省「大学の世界展開力強化事業」
- 2013年度 厚生労働省「臨床研究中核病院整備事業」
(現:AMED「臨床研究品質確保体制整備事業」)
- 2014年度 文部科学省「研究大学強化促進事業」
- 科学技術振興機構「グローバルサイエンスキャンパス」
- 厚生労働省「国産医療機器創出促進基盤整備等事業」
- 文部科学省「課題解決型高度医療人材育成プログラム」
- 文部科学省「大学教育再生加速プログラム」のテーマIII (入試改革)
- 文部科学省「橋渡し研究加速ネットワークプログラム」の橋渡し研究支援拠点
(現:AMED「橋渡し研究加速ネットワークプログラム」)
- 文部科学省「スーパーグローバル大学創成支援」事業
- 文部科学省「国立大学改革強化推進補助金」
(教育の実質化断行と基盤体制構築による「学びの構造化」の実現)
- 2015年度 文部科学省「国立大学改革強化推進補助金」
(国立六大学連携による新たな国際連携モデルの構築)
- 2016年度 文部科学省「大学の世界展開力強化事業」



岡山大学のニュース&トピックスおよび最新情報は岡山大学のホームページからご覧いただけます。
<http://www.okayama-u.ac.jp>

12 December

2日 中国長春事務所が「在瀋陽日本国総領事館表彰」を受賞

4日 硬式テニス部に岡山県車いすテニス協会から感謝状が贈呈

4日 マレーシアアボラ大学・中国・浙江工業大学・厦門大学の若手教員と博士修学生10人が本学を訪問

5日 オランダ・ユトレヒト大学カレッジ(COL)と大学間協定を締結



6日 フランスのトゥールーズ第3ポール・サバティエ工科大学長らから森田潔学長を表敬訪問



14日 イルミネーションで交流広場を彩るイベント「岡山大学・輝き2019」を開催



15日 第58回岡大サイエンスカフェを開催
岡山大学高等教育フォーラム「ポータル」に学ぶ実践知教育を開催

16日 グローバルティイスカバリ・プログラム(国際入試第1期)の合格発表表を実施

17日 平成28年度岡山大学解剖体感鑑賞会を開催

20日 定例記者発表を開催

12 January

2日 トムソンローターのまとめたアジアで最もイノベーションが速い企業TOP25で、本学が38位(国内13位)にランクイン。森田潔学長に記念の盾を授与

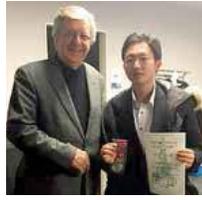
26日 法科大学院のプログラムが文部科学省の平成29年度法科大学院公的支援見直し評価・加算プログラムにて最も高い評価である卓越した優れた取組に選ばれた



4日 Junko Fukukake Terraceが2016年度岡山市景観まちづくり賞に選ばれた



11日 医学部医学科2年生の中田征希さんが第18回シモン国際コンクール in ASIA (Final Stage)のアマチュアソロ部門で銀賞を受賞



13日 地域総合研究センターが学部・学域・学系学生企画成果報告会を開催

24日 大学院自然科学研究科の大学院生でつくる4チームが第15回学生によるビジネスプラン提案コンテストで特別賞・中国経済産業局長賞・奨励賞・佳作2件をそれぞれ受賞



31日 平成28年度岡山大学若手トップリサーチアワード研究奨励賞で大野充昭助教を表敬

2 February

1日 岡山県鏡野町と寄付研究部門の設置に関する協定を締結



15日 外務省領事局海外邦人安全課長を招き、役員招聘特別講演会(海外における留學生の安全対策)を開催

21日 水泳部の中尾駿一さんマッチングプログラムコース3年が、第36回岡山スポーツ賞個人賞を受賞



岡山大学病院の大藤剛宏教授をチーフとする肺移植チームが、ベトナムで養病(のうぼう)性肺線維症の6歳男児への生体肺移植手術を実施



28日 岡山大学グローバルティイスカバリ・プログラム開設記念シンポジウムを開催

3 March

6日 株式会社ストライフインターナショナル・公益財団法人石川文化振興財団・石川康晴氏と文化的教育のプログラムに関する包括協定を締結

世界的に活躍できる起業家らの育成を目指す寄付講座「ストライフ講座(仮称)」開設や、「ストライフホール(仮称)」を津島キャンパスに建設することなどを発表



研究・臨床成果

■異分野基礎科学研究所の西原康助教授、久保岡芳博教授、森裕樹助教、大学院自然科学研究科の兵頭憲太大学院生の共同研究グループは、高性能な有機半導体材料として有用なビセン類縁体である、新材料「ジチオフェン(CTP)」の効率的な合成法の開発に成功。さらに、有機電界効果トランジスタ素子を作製したところ、多結晶薄膜において最大ホール移動度(540cm²/Vs)と極めて高い性能を得ることに成功した。また、この要因は、均質な高い結晶性を持つ薄膜の形成と最高被分子軌道(HOMO)の形状に由来するものであることをDFT計算を用いて明らかにした。英国の科学雑誌「Scientific Reports」に掲載。(12月・臨時発表)

■大学院自然科学研究科の高田潤教授(特任)の研究グループは、鞘膜酸化鉄をつくる微生物を人工培養し、酸化鉄中に含まれる元素の種類と比率を自由に調整する独自の二段階作製法を世界で初めて開発。鮮やかな赤色顔料や、優れた固体触媒といった産業上重要な新しい材料の製造に成功した。(12月・臨時発表)

■大学院医歯薬学総合研究科の藤原俊義教授、岡山大学病院新医療開発センターの田澤大准教授、株式会社林原らの研究グループは、2006年に林原が開発した新規の制御性細胞「EZO(エゾ)」(ホネテ)を用いて、腫瘍融解ウイルス製剤をがん細胞へ選択的に運搬する技術の開発に成功。英国の科学雑誌「Scientific Reports」電子版に掲載。(12月・定例発表)

■大学院環境生命科学研究科の村田芳行教授と韓国大邱慶北科学技術院(DGIST)、米國Drexel大学の研究グループは、植物のグルタミン酸受容体型タンパク質が、アミノ酸の一つであるメチオニンにより活性化される新規のカルシウムチャネルを形成し、気孔運動や植物の生長に関与することを明らかにした。米国の科学雑誌「Cell Reports」に掲載。(12月・定例発表)

■資源植物科学研究科の杉本学准教授らの研究グループは、国際宇宙ステーション(ISS)船外に保管したイネ種子は、保管期間の長さに伴い発芽率が低下し、種子中の発芽に関与する貯蔵型mRNAsが減少することを明らかにした。オランダの科学雑誌「Life Sciences in Space Research」に掲載。(12月・定例発表)

■資源植物科学研究科の山田直樹准教授、馬建鋒教授らの研究グループは、イネの種に米養素が分配される仕組みを解析し、イネ種子へのリンの蓄積に関わる輸送体「SPD1」を世界で初めて突き止めた。英国の科学雑誌「Nature」に掲載。(12月・臨時発表)

■大学院自然科学研究科の妹尾昌治教授、笠井智成講師らの研究グループは、ヒトの膀胱がん由来する細胞株を培養する液体の上清を用いて、マウスの腎細胞を培養。MS細胞ががん幹細胞へ誘導・変化することを確認した。また、このがん幹細胞をマウスマスの皮下に移植すると、膀胱癌管がんの形成、つまり膀胱がんになることを突き止めた。これら一連の研究成果は、従来の遺伝子の変異や挿入欠失などの操作を行わずに臓器に特異的ながん(腫瘍)を人為的に作り出したものであり、世界で初めて成功。がん研究の国際科学雑誌「American Journal of Cancer Research」に掲載。(12月・臨時発表)

■大学院医歯薬学総合研究科の白浅未来助教、竹内智也大学院生の研究グループは、免疫反応やアレルギー反応を担う肥満細胞がホリミン輸送タンパク質が動き、ヒスタミンの分泌を調節していることを明らかにした。米国の科学雑誌「The Journal of Biological Chemistry」に掲載。(12月・臨時発表)



ALUMNI
OKAYAMA UNIVERSITY

岡山大学 アラムナイ Alumni(全学同窓会)

岡山大学 Alumni(全学同窓会)は、従来の同窓生を中心とした同窓会とは異なり、在学生や教職員、教職員OB、留学生、研究生等、岡山大学に関わった全ての方々を会員として、「オール岡大」で岡山大学の発展を目指すネットワーク組織です。

これからの社会の担い手である優秀な人材を育成し、岡山大学が知の養い手として発展するために、学内各所と協力しながら、さまざまな支援事業を行っています。

岡大アラムナイネットの登録



◀アラムナイネット登録ページはこちらから

会費納入のお願い(終身会費:10,000円)



◀アラムナイ会費納入ページはこちらから

問い合わせ

岡山大学 Alumni(全学同窓会)事務局
〒700-8530 岡山市北区津島中一丁目1番1号
(岡山大学津島キャンパス 本部棟4階)

TEL:086-251-7019 FAX:086-251-7294
E-mail:ou-alumni@adm.okayama-u.ac.jp

▶グローバル人材育成支援事業

学生の海外派遣や海外での国際会議への参加、自己啓発活動としての海外研修等の諸活動に対し奨励金などの支援を行います。

▶就職活動支援事業

在学生の就職活動について、キャリア・学生支援室と連携して、同室が主催する各種イベント等へ参加する学生への就職活動の支援を行います。

▶各種行事支援事業

本学で実施している「スーパースターグローバルホームカミングデー」において、各学部で実施するホームカミングデー事業への支援を行います。

▶支部活動活性化支援事業

全国各地の会員が学部の垣根を越えた交流と親睦を図ることを目指し、支部設立に取り組んでいます。設立された支部に対しては、活性化に向けた支援を行っています。

今後も多様な支援事業を立ち上げる予定にしておりますので、よろしくお願いたします。



OKAYAMA
UNIVERSITY

岡山大学学都基金

—地域・社会とともに、真のグローバル人材を育成する—

岡山大学における教育活動、国際交流、社会・地域貢献の一層の進展及びキャンパス環境の整備・充実を図るとともに、グローバル人材育成、イノベーション拠点形成の推進に資することを目的として設置しました。基金の目的を達成するために目的別事業テーマを設定し、事業テーマに沿った支援活動を行います。

岡山大学学都基金は皆さまからの貴重な寄付金によって成り立っています。本基金の趣旨にご賛同いただける方は、任意の額にてご支援をお願いいたします。



▼事業テーマ一覧

事業テーマ	支援事業の概略
教育活動支援事業	優れた教育活動・グローバル人材育成事業へ支援を実施
イノベーション創出支援事業	イノベーション創出のための支援を実施
研究活動支援事業	優秀な研究・研究者への支援、若手教職員の能力開発支援を実施
修学支援事業	経済的理由により修学が困難な学生に対し支援を実施
一般事業	寄付者の使途指定のない事業への支援 地域社会への連携活動への支援

寄付金の申込方法

右記連絡先に、住所・氏名をご連絡ください。折返し、パンフレット等を送付いたします。パンフレットに同封の振込依頼書により振込手続きをお願いいたします。

インターネットからの申し込みも可能です。
学都基金の詳細については、ホームページ

<http://www.okayama-u.ac.jp/user/kouhou/kikin/>
をご覧ください。

税制上の優遇措置についても記載しております。

(寄付金控除の対象となります。)



●お問い合わせはこちら

岡山大学学都基金事務局
(総務・企画部総務課)

〒700-8530 岡山市北区津島中一丁目1番1号
TEL 086-251-7009 FAX 086-251-7294
E-mail kikin@adm.okayama-u.ac.jp

